

NO LIMIT, YOUR LIFE

ノーリミット, ユアライフ

【映画企画制作経緯等について】

初めて ALS を知ったのは 10 年前、愛知県の患者様との出会いがきっかけでした。延命治療を選択されず 1 年後に逝去されましたが、その取材経験から「いつか ALS は治る」と願い、新しい治療法の取材を続ける中で、2017 年 4 月に会ったのが武藤さんでした。病気が進んでも諦めず「ALS が治る未来」に向かって、ワクワクするようなアイデアを次々と実現させる武藤さんのエネルギーと、試行錯誤しながら献身的に支える妻の木綿子さん。約 6 年にわたる取材の中で、泣き、笑い、喧嘩して… 2 人のありのままの姿から ALS を知ってもらい、病気や障害を抱えても自分らしく生きる姿をニュースやドキュメンタリーとして放送してきました。その反響が大きく、取材を継続し、関係者のご尽力もあり映画作品として完成させることができました。今この瞬間も「未来を変えるアイデアを形に」しようと走り続ける武藤さんの“限界なき”挑戦の原点を、世界に伝えていきたいと思います。

—監督 毛利哲也

使命を自覚するとこんなにも強くなれるんだ…。マサくとユウコちゃんとは、ライブ行ったり一緒に食事にも行く友人関係でしたが、映画で見る私の知らない 2 人の姿に胸が熱くなりました。ナレーションの収録では感情を抑えられなくなるシーンもありましたが、気持ちを込めて読ませていただきました。ただのがむしゃらではなく、ひとつひとつコツコツと奇跡を自らの手で掴もうとする姿から何かを感じ取ってもらえたらうれしいです。

—ナレーション 石原さとみ

武藤将胤はよくいる不可能を可能にする者じゃない。道を創る男だ。武藤だからやれたで終わるのではなく、彼の切り拓いた道は多くの後輩や仲間が集まり、通れる大きな選択肢となる。だから、一緒にやっている。武藤を観ると誰もが信じられなかった未来を信じられる。寝たきりの、先はある。手足は作る。これからも走り続けよう盟友。

—武藤の盟友 吉藤オリイ

【INTRODUCTION】

ALS（筋萎縮性側索硬化症）発症を知った上で結婚した二人。愛と科学で立ち向かう姿を描くヒューマンドキュメンタリー。

2021 年 8 月東京パラリンピック開会式。車いすの少女が演じる「片翼の小さな飛行機」の物語でギタリスト布袋寅泰らに乗せたデコトラの運転席に座り、ド派手な衣装でも注目を集めた武藤将胤（まさたね）さん。すべての人が自分らしさを表現し、生き続けられる「BORDERLESS な生き方」を世界へ発信した。大学を盛り上げるイベントに明け暮れた学生時代。口癖は「クレージーに行こうぜ！」。社会を明るくするアイデアを形にしたい、その夢を叶えるため大手広告会社に就職。広告プランナーとなり順風満帆の人生が続くと思っていた。妻・木綿子

（ゆうこ）と初めて会った日、手の震えが始まっていた。27 歳の時、全身の筋肉が徐々に動かせなくなる不治の難病 ALS と診断。「俺の人生は終わるのかー」絶望しかけた、その時、浮かんだのは、患者たちの未来を明るくするアイデアを形にする事。病気の啓発と、最新テクノロジーを使った活動を開始。武藤将胤の限界なき挑戦の日々を伝える、ヒューマンドキュメンタリー映画の誕生です。

ALS (Amyotrophic Lateral Sclerosis・筋萎縮性側索硬化症) とは

手足やのど、舌などの筋肉が痩せて徐々に弱くなっていき、意識や感覚は保たれたまま、全身が動かせなくなる進行性の難病です。筋肉の病気ではなく、筋肉を動かす脳や脊髄にある運動神経細胞(運動ニューロン)が障害を受けることで発症します。一般的に病状の進行は早く、延命治療となる人工呼吸器を使用しなければ、個人差はありますが、発症から平均3～5年で呼吸困難に陥り、死に至ることが多いと言われています。日本での患者数は、約1万人で、性別ではやや男性が多い傾向にあり、特に60～70歳代に多く、稀に若い世代での発症もあります。ALSの大部分は遺伝とは関係なく、原因が不明の「孤発性」と呼ばれます。全体の5～10%が「家族性」で近年続々と原因遺伝子が明らかとなっていますが、発症のメカニズムはまだ十分に解明されていません。進行を遅らせる既存薬はありますが、まだ根本的な治療法はなく、その開発が急がれています。

【STORY】

全身の筋肉が徐々に動かせなくなるALS(筋萎縮性側索硬化症)。

根本的な治療法がない難病と闘う武藤 将胤(まさたね)さん(36)の約6年間の活動に密着。病気や障害などハンディキャップを抱えても自分らしく挑戦できる社会の実現へ走り続ける“限界なき”生き様を伝えます。

大学を盛り上げるイベントに明け暮れた学生時代。「社会を明るくするアイデアを形にしたい」との夢を描き、叶えるため大手広告会社の広告マンに。順風満帆の人生が続くと思っていました。

妻の木綿子(ゆうこ)さんと初めて会った日、すでに手に震えが…。27歳の時にALSと診断。絶望しかけた時に浮かんだのは、患者たちの未来を明るくするアイデアを形にしたい…。病気の啓発と最新テクノロジーで患者を支える活動を始めました。患者は比較的最後まで「目」を動かせると知り、メガネメーカーと共に「目」で音楽と映像を同時に操るシステムを開発。DJになりたかった夢を叶えて、EYE VDJ MASAとして著名アーティストたちと共演をするまでになっています。診断から2カ月後にプロポーズされた木綿子さん。友人から反対もされましたが「私にしかできない」と結婚。仕事と介護の両立を試みましたが負担は増して喧嘩も絶えなくなり、ヘルパーを導入。数々の困難を乗り越えて夫婦の絆を深めていきました。

2018年にはALSの治療法開発を続ける研究者を支援するためミュージックフィルムの制作を開始。その最中、呼吸する力が弱ってきたため「生命に関わる」と医師から気管切開、そして延命治療となる人工呼吸器の装着を勧められました。しかし手術を受ければ「声」を出せなくなり、コミュニケーションを取るのが難しくなってフィルムは完成させられないかもしれない。悩んだ末に「今を生き切りたい」と手術を先に延ばし、ゼロから音楽と映像を完成させました。

込めたメッセージは「KEEP MOVING」(行動しつづけよう)。医学の進歩に期待を込め、ALSが治る病気になった20年後の未来を描くポジティブな内容で、大きなインパクトを残しました。ALS患者など重い障害を抱えた人を支える訪問介護事業所を設立して経営者となり、不足している介護人材の育成にも力を入れています。患者の友人が目を動かすのが難しくなり意思表示が難しくなったと知り、企業と「脳波」で意思を伝えるデバイス開発を始めました。

しかし…飲み込む力が弱って誤嚥性肺炎を2回起こし、2020年1月誤嚥を防ぐ手術を受け「声」を失いました。それでも諦めず、この日に備えてAIによる音声合成アプリで事前に自分の「声」を作成。目の動きで文章を作って読み上げるデバイスと融合した新しい技術で会話するスタイルで活動を再開しました。盟友のロボット研究者・吉藤オリイさんが開発した分身ロボット「OriHime」(オリヒメ)を通じて働けるカフェのプロジェクトにも参加。

2021年に完成し、病気や障害を抱えて外出困難な人たちの希望に繋がる場となっています。

2022年の活動は、さらに進化。目でデバイスを操り、自身のアパレルブランドではデザインを担当。さらにオリジナル楽曲の作詞作曲にも挑戦し、国際的な広告の祭典「カンヌライオンズ」で世界初のライブパフォーマンスを披露。活動の幅を広げています。木綿子さんは新しい仕事を開始…そして2人の新たな挑戦が一。

ハンディキャップを抱えていても、その垣根を越えて、誰もが自由に表現し、生きることができる社会を目指して。

そして…難病ALSが治る日が来ると信じて…NO LIMIT, YOUR LIFE

武藤 将胤 (まさたね)

1986年 アメリカ・ロサンゼルス生まれ、東京育ち。大学卒業後、博報堂／博報堂 DY メディアパートナーズで、様々なクライアントのコミュニケーション・マーケティングプラン立案や新規事業開発に従事。27歳で難病 ALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断されたことをキッカケに一般社団法人 WITH ALS を設立。現在は、クリエイティブの力で「ALS の課題解決を起点に、全ての人々が自分らしく挑戦できる BORDERLESS な社会を創造する。」ことをミッションに、エンターテインメント、テクノロジー、介護の3領域で課題解決に取り組んでいる。クリエイターとして、2021年東京パラリンピック開会式や2022年 CANNES LIONS など国際的イベントにも多数出演。自身のアパレルブランドでは、視線入力によるデザインを担当。

楽曲の作詞作曲も手掛け、EYE VDJ MASA として、様々なアーティストとコラボレーション楽曲を制作。2021年に『EVERYONE,CHALLENGER』、そして2022年にリリースした『FLY』は、今作の主題歌となった。

吉藤オリイ (株式会社オリイ研究所 代表取締役所長)

小学5年～中学3年まで不登校を経験。高校時代に電動車椅子の新機構の発明を行い、世界最大の科学コンテスト ISEF にて Grand Award 3rd を受賞。早稲田大学在学中、孤独解消を目的とした分身ロボット「OriHime」を開発し、2012年株式会社オリイ研究所を設立。分身ロボット「OriHime」、ALS等の患者さん向けの意思伝達装置「OriHime eye+ switch」、全国の車椅子ユーザーに利用されている車椅子アプリ「WheelLog!」、寝たきりでも働けるカフェ「分身ロボットカフェ」等を開発。米 Forbes 誌が選ぶアジアを代表する青年30人「30 Under 30 ASIA」、グッドデザイン大賞2021、Prix Ars Electronica2022 digital communities 部門にてゴールデンニカ(最高賞)など受賞。書籍「孤独は消せる」「サイボーグ時代」「ミライの武器」

監督：毛利哲也

1975年福岡県生まれ。株式会社フレックス コンテンツ制作部ディレクター。大学卒業後、山口県の地方局で記者兼カメラマンとして犯罪被害者や終末期医療等を担当。2006年からテレビ朝日「報道ステーション」のディレクターとして、最先端医療等を担当。2015年 ALS 患者に密着したドキュメンタリー番組「笑顔の約束～難病 ALS を生きる～」で日本民間放送連盟賞の優秀受賞。2020年より現職。今作が初監督作品。

音楽：mi-on (ミオン) (佐藤かおり)

青森県弘前市生まれ 弘前高校卒(太宰治の母校)。着物職人の父と日本画家の母の間に生まれる。猫と着物と料理好き。3歳からオルガンを弾き始め、エレクトーンを習う。中学生の頃、テレビから流れた富田勲氏の音楽に感動し、音創りに目覚める。YMO&坂本龍一に憧れ、PCで作曲を独学で始め、ラジオ番組「不思議の国の龍一」や「RADIO SAKAMOTO」で Angel Quartz(オペラ歌手とエレクトロサウンドの融合ユニット)として何度か投稿して取り上げられる。ゲーム制作会社、音楽制作会社などで勤務を経てフリーランスとしてテレビの報道番組、情報系番組への楽曲提供多数。

<https://linktr.ee/mionkaorin>

武藤将胤 武藤木綿子 ナレーション：石原さとみ

企画：河野太一 演出・プロデューサー：浦本 勲 プロデューサー：大黒和典

監督：毛利哲也 協力プロデューサー：白倉由紀子 遠藤英明 宣伝プロデューサー：泉谷 裕

制作プロダクション：フレックス 製作：テレビ朝日 フレックス 配給・宣伝：東映エージェンシー

2023年/カラー/5.1ch/16:9/1時間39分/©2023 テレビ朝日・フレックス www.masatane.toeiad.co.jp